



加藤 綾佳/映画監督

1988年生まれ。映画美学校12期フィクションコース修了後、初監督作「水槽」を製作。ぴあフィルムフェスティバル2012コンペティション部門に入選。

その後、映画やCMの助監督や制作スタッフを経て、2015年「おんなのこきらい」にて劇場デビュー。2018年最新作「いつも月夜に米の飯」を公開。CMやテレビ番組のディレクター、脚本家としても活動中。現在、平成最後の日を切り取ったオムニバス映画『平成最後映画』が公開待機中。



中川 龍太郎 / 映画監督、脚本家

1990年、神奈川県生まれ。慶應義塾大学文学部卒。在学中に監督を務めた『愛の小さな歴史』(13)で東京国際映画祭スプラッシュ部門にノミネート。『走れ、絶望に追いつかれない速さで』(14)も同部門にて上映され、2年連続入選を最年少で果たす。

『四月の永い夢』(17)は世界4大映画祭のひとつ、モスクワ国際映画祭コンペティション部門に選出され、国際映画批評家連盟賞とロシア映画批評家連盟特別表彰をダブル受賞。松本穂香を主演に迎えた最新作『わたしは光をにぎっている』がモスクワ国際映画祭に特別招待されワールドプレミア上映を果たす。日本では2019年の公開を予定している。詩人としても活動し、やなせたかし主催「詩とファンタジー」年間優秀賞を最年少で受賞(10)。